新年のご挨拶

菅田正昭　民俗宗教史家

謹賀新年。平成という年月も、あと四か月を残すだけとなった。平成が始まった数日後、岡本三典さんから電話を頂戴した。岡本さんとは、かの『日月神示』あるいは『一二三神示』と呼ばれる神示の受信者・筆記者（自動書記者）として知られる岡本天明（一八九七～一九六三）師の夫人である。

「菅田さん、平成という元号の意味を知っている？」との電話だった。三典さんからの電話だったので、ヒフミの数霊的に考えなければならないと思って「タイラバヤシかヒラリンか」（いちはちじゅう）一八十の木木…」と落語を念頭に答えた。三典さんは「やっぱり、わかっていらっしゃるのね。一八十成…なのよ」と教示してくれた。すなわち、平成という元号の言霊・数霊には、天の岩戸が開いてガラガラと鳴る岩戸開きの意味が込められている、と仰るのである。一方、文字どおりの平に成るという意味もある。社会的平等や、自然災害などで地形が平らになる可能性もある、というのだ。が、僕はそのことにはあえて触れない。

昭和39年、僕は学習院大学に入学した。八重桜がピラミッド教室や血洗の池周辺で咲いていた頃、目白駅を降りて、通用門から体育館の横を通り過ぎた時だった。学習院幼稚園の園児たちが歩いてきた。その中の一人が突然、走り出し、僕の前までやって来ると、ピョコンとお辞儀をされた。僕もつられて頭を下げた。浩宮さまだった。間もなく天皇陛下になられる皇太子徳仁親王殿下だった。僕はそのとき浩宮さまを、お守りしなければならないと思った。草莽の微々臣の僕にはそんな力はないが、その気持ちは今も変わらない。

年頭のご挨拶

田中壮谷　宗教法人国柱会霊廟賽主

合掌　新年明けましておめでとうございます。本年が皆様にとりまして、より良い年になりますことを、心よりお祈り申し上げます。

平成の御代も、本年で度心に思い起こして、平成の御代を憶念致したくりお祈り申し上げます。

今上陛下におかれましては、自然災害の度に、我々国民の為に祈りを捧げるばかりでなく、幾度となく被災地へご慰問あそばされました。国民の一人として、被災者でもない私もとても勇気づけられました。

天皇皇后両陛下ならびに、ご皇室の弥栄を心よ

年頭のご挨拶

久保継成　在家仏教こころの会会長

賀正

私たち「在家仏教こころの会」は、私たちの祖師、久保角太郎と小谷安吉・喜美夫妻の三人が、『法華経』を通して釈尊が語りかけてくる教えに基づいて、始めたものです。

祖師の一人である小谷喜美は、晩年、「仏の世界の実現」をスローガンに掲げました。その「仏の世界」は、どこにあるのか？　「実現」とは、どういうことを意味するのか？

『法華経』に説かれているお釈迦さまの教えの一つの大きな軸として、「菩薩」という思想があります。これは〝生きている者が、生きている中での向上を求め、それに向かって行動し、しかも、今後の人類に役立たせていく〟、そういう期待を述べているのです。「菩薩」「菩薩行」とは、『法華経』には、そのように説かれています。

これは「人間」がいないとできないことです。

その基となるものは、〝みんな、父母がいて、今の自分がいる〟という「平等」です。

「平等」の出発点は、〝みんな、同じではない〟ということです。

わたくし自身が『法華経』を読みながらの人生を歩んできて、今、たどり着いているところは、『法華経』に説かれているお釈迦さまの教えにめぐりあうと、そのめぐりあったことに応じて、うれしくなって、〝そのこと〟を自分と縁のある人たちに語るようになる〟ということです。それは、お経の言葉で言えば、「随喜」です。

二〇二〇年二月九日「祖師小谷喜美五十回忌」に向けて、「聞く語る」運動の〝実り〟を生みだしていきましょう。

HIROSHIMAからの傾聴

東和空　聴行庵 住職

新しい年を迎えて皆様のご健勝とご多幸をお祈りいたします。そして、闘病中の方々は快方に向かわれますように、また、すべての被災に遭われた方々と悲嘆の中にある方々には寄り添いがありますようにお祈りいたします。

ここ広島は、オバマ米大統領が2016年5月27日に米国の現職大統領として初めて被爆地・広島を訪れて、平和記念資料館（原爆資料館）を視察し、原爆死没者慰霊碑で献花して以来、外国人観光客数が2014年に65万7000人であったのが、2017年には151万9000人となっており今尚その数は増え続けております。

多くの国々に配信されたその演説は、戦争の悲惨さを強調し、「恐怖の論理にとらわれず、核兵器なき世界を追求する勇気を持たなければならない」と述べ、私たちHIROSHIMAに住む者の受け容れることの精神性や役割をも決意させるものでした。そのことでここを訪れる人たちはみな服装を整えて祈りを深め、この時空にある豊かさだけではない個々の精神性の中にある平和を実感していただけることを願ってやみません。

そのためにHIROSHIMAの私たちができることは、多言語化とその音声ガイドの用意、無料ボランティアによる解説、体験型ツアーの企画など観光的要素のあるものから、超宗教の祈り場の提供や平和を希求してくる方々に共感し傾聴できる場所と機会を創設してまいりたいと思います。まずはThink tankへの年にしたいと誓願を申し上げます。

新年のご挨拶

小林秀英　雪蔵山十善院住職

明けましておめでとうございます。今年は、陛下のご譲位を迎え平成の御代最後の年となりました。イスラームを巡ってもいわゆる「イスラーム国」は壊滅されて、テロ活動も、多幸に繋がればと願ざるを得ません。

新春に向けて

水谷　周　日本ムスリム協会理事

内外共、何か地殻変動のような大きなうねりを誰しもが感じている昨今です。それでも何とかその動向が、大規模な暴力行為に結びつかずに時間が経過している、そういった印象が昨年より持ち越されて、この新春を迎えることとなりました。本紙関係の各方面や、さらには生きとし生けるもの全員に穏やかで、幸多い年となることを祈念いたします。

イスラームを巡ってもいわゆる「イスラーム国」は壊滅されて、テロ活動の事案が少なくなってきています。そしてそれとともに、イスラームの宗教としての教えをもっと知りたいという声が、近時強くなってきています。正義と情けの生活を説いています。時空を超えたというのは、実は多くの宗教と共通の諸側面があることも指しているように思えます。互いの学びの年にもなれば、と願わざるを得ません。

年頭のご挨拶

中田蘭石　文学博士・教育学博士

謹んで新春のご祝詞を申し上げます。

刻々平成了　猪突猛進

異不同　義用和為貴（漢字俳句）

「刻々と平成は了（おわ）る。猪突猛進のものは異にして同ぜず、義の用は和して貴しと為す。」と、拙作で以って新春の全家万事如意の吉祥をお祈り申し上げます。本年の干支は「亥」で「ガイ」と音読し、「い」や「いのしし」と読み、象形文字は「猪」です。この亥と猪の文字を組み入れて一句を詠ませていただきました。

この世に極楽浄土があり、それは「平成」と言うほどに名を轟かせた文化の時代が、刻々と了ろうとしています。世界情勢変貌の中で、猪突猛進するものたちは異論をとなえ同調せず、紛争まで起こしています。我が国は儒教を国教として以来、仁や義を重んじて、国政を行い、教育を行ってきました。礼儀や道徳のはたらきは、調和していくことを貴んだ永い歴史があり、平穏と和諧を求めたこの発展と進歩の度合いは高く、企業中心にみても収益を好調に伸ばし最高潮に到達しました。しかし、貿易摩擦や新興国経済減速などの懸念から世界の不透明感は増すばかり。デジタル革命が加速する中、成長投資・研究開発・余剰資本の還元などと対策領域は幅広く、従来規制の見直し、環境整備などとその要求も宝の山積でございます。

「政事に制有り　文化に境無し」の精神で、福夢のグローバル社会に、世界の皆様で構築されることをお祈り申し上げます。

冬の寒さをたえながら新しい生命の誕生を待つ

片倉重信　青葉神社宮司

平成三十一年己亥の年を迎え謹んで新春の寿辞を申し上げます。

本年は、今上陛下のご譲位により、いよいよ新しい御代へと替わる時を迎えました。日本のみならず地球規模でも変革の時ではないかと感じます。物事には、必ず表と裏があり、陽と陰があります。今や隠されていた裏の真実があからさまになり、すべての事柄が見えてくる時代となりました。物事の表裏一体、前後左右を見つめ、物事や社会現象、歴史を立体的に理解することができる時代となりました。

古代から今日までどのように歴史が流れ、これからどのような方向に向かうのか。明らかになる根源的な真理に基づいて、宇宙的な視点で、全体を俯瞰して見る見方を養うときです。

干支でいえば、昨年までの三年間は秋の季節。春に蒔いた種が芽を吹き、夏を経て成長し、実ったものを収穫する年に当たりました。明けて今年からの三年間は冬の季節に当たります。「亥」は核に通じます。中核です。「子」は文字通り胎児を表し、「丑」は糸辺をつければ紐です。今後の三年間、生命の種が母の胎中に宿り、〈その緒につながれて栄養を受けながら育っていくような時代となるのです。この間、冬の厳しい寒さに耐えなければなりませんが、そこで鍛錬された新しい生命の誕生に備える希望の時ともなります。

即位される天皇陛下が先の天皇陛下より尊い伝統のすべてを継承され、よき御代となられますことを心よりお祈りしております。

皆様にとりましても、幸多き一年でありますことをお祈りして新年の挨拶といたします。

福夢は登れ宝の山積

中田蘭石　文学博士・教育学博士

謹んで新春のご祝詞を申し上げます。

刻々平成了　猪突猛進

異不同　義用和為貴（漢字俳句）

「刻々と平成は了（おわ）る。猪突猛進のものは異にして同ぜず、義の用は和して貴しと為す。」と、拙作で以って新春の全家万事如意の吉祥をお祈り申し上げます。本年の干支は「亥」で「ガイ」と音読し、「い」や「いのしし」と読み、象形文字は「猪」です。この亥と猪の文字を組み入れて一句を詠ませていただきました。

この世に極楽浄土があり、それは「平成」と言うほどに名を轟かせた文化の時代が、刻々と了ろうとしています。世界情勢変貌の中で、猪突猛進するものたちは異論をとなえ同調せず、紛争まで起こしています。我が国は儒教を国教として以来、仁や義を重んじて、国政を行い、教育を行ってきました。礼儀や道徳のはたらきは、調和していくことを貴んだ永い歴史があり、平穏と和諧を求めたこの発展と進歩の度合いは高く、企業中心にみても収益を好調に伸ばし最高潮に到達しました。しかし、貿易摩擦や新興国経済減速などの懸念から世界の不透明感は増すばかり。デジタル革命が加速する中、成長投資・研究開発・余剰資本の還元などと対策領域は幅広く、従来規制の見直し、環境整備などとその要求も宝の山積でございます。

「政事に制有り　文化に境無し」の精神で、福夢のグローバル社会に、世界の皆様で構築されることをお祈り申し上げます。

利他の商人

熊谷かおり　ミュージカルプロデューサー

明けましておめでとうございます。

この新春に「京都一中百五十周年記念・われら自由の学び舎に育ち」（稲垣真美・熊谷かおり編著　ミネルヴァ書房）を刊行いたします。湯川秀樹氏はじめ、各界で活躍された京都一中（現洛北高校）の卒業生二十数名を取り上げました。本著の中で私は「利他の商人」と題して、鳩居堂当主の系譜を紹介しています。

「平家物語」にも登場する熊谷直実より二十代目の熊谷直心が一六六三年、京都寺町に創立した薫香・書道用具のお店、鳩居堂。四代当主熊谷直恭は、天保の飢饉で苦しむ人々のために、三条大橋たもとに救い小屋を建て、難民に食料と医療を施します。また伝染病の蔓延する当時、日本初の種痘所を作り、コレラ隔離病棟を設けた直恭ですが、自らがコレラで命を落としました。

幕末維新を生きた鳩居堂七代当主熊谷直孝は、その動乱期を人々と協力して支えます。勤皇の志士を匿い、御所への献金を集め、町衆のために奔走。そして日本初の小学校を作り、教育にも尽力しました。

いつの世も、人がいれば摩擦がある。お互いをゆるし合い、幸せを願う。すべてを受け入れ、新しい最良の種を見出し、しっかりと育てていく。歴史を振り返り、いろいろな情報・技術を活用すれば、不可能ではないはずです。明治維新一五〇年を越えて、新たな元号となる今年。いよいよ私たちは助け合い、清らかな心で美しい自然環境に命を育んでいかなければならないと思います。

霊魂心を満たす

出口　光　一般社団法人メキキの会会長　一般社団法人志教育プロジェクト理事長

あけましておめでとうございます。

今年は天皇が譲位される御代替わりの年で、新しい時代に入る変わり目となります。干支においても、まさに最後の「亥」の年で、地面に落ちた種が土中で、次世代の生命として芽吹こうとする、次へのタスキを渡す大切な準備期間を意味しています。

昨年の10月に、国連気候変動に関する政府間パネル（IPCC）は、私たち人類が、このまま進むと、2030年にも世界の平均気温は、産業革命前よりも1・5℃上昇するとした特別報告書を公表しました。

1・5℃の気温上昇は、世界で気候変動を激化させ、重大な自然災害を招くと警告しています。

これまで、人類は自分の組織や国を発展させるべく懸命の努力をすることで、互いの利益の衝突を繰り返し、極端な貧富の差を生み出してきました。環境破壊、精神破壊によって、まさに世界的な危機を迎えています。つまり部分最適の総和が全体最悪をつくりあげているのです。

人間の精神は大きく霊魂心の3つに分けることができます。「霊」は世界平和を願う全体最適の想いであり、「魂」は自分のやりたい専門性を追求し部分最適を作り出し、「心」はまさしく快楽を追求する個人最適を作り出します。

全ての活動の源泉は、人間の精神にあります。21世紀初頭の人類は、まさにこの霊魂心全てを満たすことを求められています。

日本の政治は民意の後追いしかできていません。今求められているのは、この人類の危機を乗り越える草莽崛起です。この節目の年に、皆様と共に新しい時代を創っていきたいと存じます。本年もよろしくお願いいたします。

新年のご挨拶

信清宏章　本門佛立宗　鎌倉山 顕証寺住職

新春のお慶びを申しあげます。

行く年来る年で、「来し方行く末」をじっくり考えている暇もなく、そして喧騒の中に身を置かざるを得ない日々が続いております。私の好きな言葉の一つでもある芭蕉の俳諧理念ともなっている「不易流行」は、しかしながら私の宗教者としての行動規範を支えています。

今年五月になりますと新天皇が即位され、元号が改まります。カレンダー等をはじめとして出版メディア業界では「暦」事の捉え方があることを見逃してはならない。人間にとって如何に「生きている間」の「修行」が大事であるかを示唆されているように思われます。AI時代の到来が巷を賑わしておりますが、「人間」としてどう生きるかを真剣に考えるべき時が来たことをどれだけの人々が認識をしているのでしょうか？

「春は種子を下して秋は菓をとるべし。（中略）極寒の時厚き衣は用也。極熱の夏は何かせん。涼風は夏の用なり。冬は何かせむ。仏法もまたまたかくのごとし。」（日蓮聖人「如説修行抄」）との先聖のお言葉は、仏教者としてこれまた巷間に真実の仏教をお伝えする上での私の行動規範には欠かせないものであると同時に次のお言葉はこれまたそうした行動を「決定」させる原動力となっております。それは「一帝をなめて大海のしををしり一華を見て春を推せよ」（日蓮聖人「開目抄」）です。

とりとめないことを書き綴りましたが、戦争や災害加虐で命を落とされた方々の慰霊と平穏無事の世の中となるよう日々「不易流行」を実践し、精進させていただく所存です。

マッカーサーによる日本宗教改造政策とその後遺症

岡本幸治　大阪国際大学名誉教授

敗戦日本に占領軍最高司令官として君臨したマック（マッカーサーの略称）は、この国が再び米国に刃向かうことのないように、天下りの日本改造を推進した。それは言論報道の厳しい統制と旧日本の全面的否定政策のもとで施行され大きな成功を収めたのであるが、ただ一つ、彼が大変な使命感を持って推進したにもかかわらず成功しなかったものがある。それは「日本のキリスト教化」である。彼は多くの宣教師を占領下の日本に招き入れた。大量の聖書を印刷して軍艦で日本に運び込ませ、日本人に配布した。日英両語で書かれた対訳聖書をタダでくれるというので、高校生の僕は京都の中心街にあるカトリックの教会に足を運んでそれをもらい受けた。教会ではそれを歓迎し「日本の信者は激増中。韓国と同じく日本のキリスト教化は間近い」という楽観的な報告が送られていた。

顧みると鎖国体制下で弾圧の対象となっていたキリスト教は、欧米列強により強要された幕末の開国とともに布教の自由をも勝ちとったが、日本のキリスト教信者はハイカラな知識人層に偏っており、一般国民の宗教といえば依然神道と仏教であった。敗戦後繁盛したのは土着の仏教系新興宗教などであり、マックが力こぶを入れたキリスト教化はとても成功したとは言えない。占領軍が作った憲法の第二〇条には「信教の自由は何人に対してもこれを保障する。いかなる宗教団体も国から特権を受け、又は政治上の権力を行使してはならない。（中略）国及びその機関は、宗教教育その他いかなる宗教活動もしてはならない」とある。これは国家神道を敵視し、これを弾圧した占領政策に由来する規定であるが、このために、宣教師が公立学校に招かれて自由にキリスト教について教えたり勧誘したりすることも全く不可能（違憲行為！）になったのである。

近年我が国では盛んに国際化に対応した新教育が叫ばれているが、その中身を見ると、英語の学習を小学校の早い段階から始めるところに重点が置かれているようだ。さてさて英語を話せば「国際人」とやらになれるのか。なるほど二〇世紀以降の世界は、大植民地を抱えていた英国や覇権拡大に成功した米国の台頭によって、英米の国語が最も通用範囲の広い国際語となっている。英語ができるのは世界で活躍するための道具として必要だ。

しかし、それを使って何を話せるのかという中身が、実は問われるのだ。外国人に「日本の神道とはどんな宗教か」「日本仏教には印度仏教・中国仏教と異なる特色が何かあるのか」などと問われて、まともな答えができない「国際人」があるだろうか。世界を見渡せば、宗教が日常生活においても大きな役割を果たし、学校教育でもそれが重視されている国が少なくない。「宗教に無知な国際人」なるものを推進している我が国は、憲法改正を含めて、大きく我が国のありようを見直すときが来ている。

新移動システム（階段のバリアフリー）
宗教施設の参拝者用に最適！
（2～6人乗り小型モノレール）
［低価格実現］
株式会社 嘉穂製作所
サービスセンター：東京　大阪　福岡
かほモノレール　検索
http://www.kaho-monorail.com　TEL 0948-72-0390